

日本共産党 取手 市政報告

明るい取手

発行:日本共産党取手市委員会
取手市井野3-19-6 TEL:72-7816

2013年8月号外

◆E-mail / jcp.toride@blue.ocn.ne.jp

◆日本共産党の見解を紹介します。

ホームページ

取手共産党

検索



取手駅西口
開発
基盤整備だけでも
177億円

暮らし大変!こんな時に、どこまで…

税金のムダづかい!

その上に

「ウェルネスタウン取手の創造」総事業費

38億円→46億円→…?

「ウェルネスタウン取手の創造」が明らかにされた当初の総事業費は38億円、その後46億円に跳ね上がり、さらに今回、拠点施設といわれる「ウェルエスプラザ」建設事業費を大幅に拡大…?、まさに天井知らずの計画です。



計画が進めば進むほど膨れ上がる…

「ウェルネスタウン」建設事業費

平成23年7月 平成24年6月 平成25年9月議会で予算化か?

7億円→12億円→さらに当初の事業費の2~3倍に…?

→これで終わるかは…不透明!



パブリックコメントで83%が反対した **ウェルネスタウン**

取手市が税金使って、駅西口と民間が建設中の「医療ビル」へつなぐ **歩行者デッキ**

10年後は縮小(半減)すると言っているのに **立体式駐輪場**

すでに駅東西連絡通路があるのに **駅東西自由通路**
2本目の通路はいらない

「どれだけ税金を使えば気がすむの」と市民、怒りの声!

パブリックコメントで8割以上の市民が「ウェルネスタウン」建設に反対(昨年7月)。市長は、パブリックコメントは「賛否を問うものではない」と開き直って、計画を強行。9月4日(予定)から始まる定例市議会に、「計画当初(約7億円)の2倍~3倍に膨れ上がる建設事業予算が提案されるのでは…」と取りざたされ、市民から「そんなことは認められない」、「どこまで税金が使われるの」と疑問や怒りの声があがっています。

いまこそ
決断を!

まだ間に合う
「プラザ」建設中止

止める勇気も大事です

今、新たな「箱もの」はいりません。駅前の一等地の市有地・B街区で進めている「ウェルネスタウン」は、まだ建設に着手していません。市民がのぞむ、役立つ土地利用計画に政策転換すべきです。駅前ですでに整備が進んでいない道路・下水・排水等の基盤整備、バリアフリーこそ急務で



一方で、
子どもの安全あとまわし
高齢者福祉費削減
負担増



**後期高齢者(75歳以上)がいる世帯
国民健康保険値上げへ**

6月市議会に「取手市国民健康保険条例の一部を改正する条例(値上げ)が提案されました。この費用に年連続の「国保会計」約3億円の黒字を還元すれば、値上げしなくてすむのに日本共産党以外の議員の賛成で可決されました。値上げとなる対象世帯は572世帯(平成25年5月時点)で、総額は約272万円(4,750円×572世帯)です。

通学路の安全確保は急務なのに

保護者や住民の反対を押し切って中学校2校を廃止、「歩道などの安全対策を図る」との統合時の約束も未だ十分実施されていません。更に小学生も小学校統廃合によって遠距離通学を余儀なくされます。6月市議会に日本共産党は「通学路の改善・安全策は行政の責任であり急務」と市の姿勢をただしました。

しっかりチェック 道理ある提案

暮らし応援の市政への転換! 全力でがんばります

アベノミクスで私たちの暮らしは良くなったでしょうか。雇用不安、目減りする年金、高すぎる国民健康保険税と介護保険料・利用料の値上げ等…、暮らしは大変です。この上、消費税が上がったら、暮らしも日本経済も壊れてしまいます。

一人で悩まずに お電話を
生活相談・労働相談/弁護士無料法律相談
TEL.72-7816

市民の暮らしを守る
日本共産党
取手市議団



加増みつ子市議
TEL:74-8154



遠山ちえ子市議
TEL:83-8290



鈴木きよし市議
TEL:74-8160



関戸 勇市議
TEL:78-0500



こんな茨城県政、もうゴメンで

- 労働者の賃上げと雇用の安定・中小企業への支援
- 「改憲」に反対、憲法を活かす茨城に

放射能汚染対策

子どもの健康調査実施

県は「現時点では内部被ばく検査など健康調査は必要ない」と、実施を拒みつづけています。栃木県は小学生を対象とした内部被ばく検査等にふみだしました。放射能から子どもと県民をどう守るか、県政の役割と責任が問われています。

子どもの医療費無料化

群馬県などでは、すでに中学卒業まで医療費は無料です。県内21市町村では対象年齢を独自に中学卒業まで拡大しています。取手市は小学卒業までを今年10月から実施予定。

自己負担も所得制限もなく中学卒業まで完全無料に必要な財源は県試算でもあと31億円。その気になれば実現できます。

関東一高い

水道料金の引き下げ

水道会計は黒字。関係市町村長は県に対し、「値下げを求める要望書」を提出しています。県内市町村の給水実績に対し、既存水利権と地下水の保有水量は1.14倍(2009年)、水余り、です。それなのに過大な人口予想をたて、八ッ場ダム、霞ヶ浦導水事業など水源開発をすすめています。この水源開発をやめれば建設負担金もなくなり、水道料金の大幅引き下げにも道が開けます。

県南地域「格差」解消

取手市内には、県営施設は取手競輪場と高校だけ…。文化施設も児童館もありません。道路、街灯、下排水等生活基盤の整備も遅れています。障がい者施設など福祉施設も少なく、「格差」があるのが現実です。こうした偏った税金の使い方の転換を求めま

市民の要望にそって有効活用

県営取手競輪場

赤字寸前、日本共産党取手委員会が実施したアンケートでは「競輪場で働く人の生活保障など図り、計画的廃止」の意見が7割を超えています。「駅から近い一等地に競輪場では…」の声も。競輪場にかわる有効活用の検討を住民参加で。取手のまちづくりにとっても大事な問題です。

◆医療・福祉の全国指標

しんぶん「赤旗」でしかわからないことがある
真実と希望を伝える新聞

しんぶん 赤旗 日刊 ●月 3,400円
日曜版 ●月 800円

